

2020 年度
就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査
結果報告

【1】調査の概要

1. 目的

本学卒業生の学生時代の学習効果が、就職先等で生かされているかを検証し、在学生への教育活動・就職支援に反映させる

2. 調査対象

2017 年度～2019 年度の 3 か年の卒業生の就職先の企業・団体(379 件)
生活科学科、ビジネス社会学科、製菓学科

3. 実施時期

調査期間： 2020 年 8 月 3 日～2020 年 9 月 10 日

集計期間： 2020 年 9 月 11 日～2020 年 9 月 30 日

4. 調査方法

調査用紙を本学卒業生の就職等で実績のある企業・団体に郵送した

5. 回答状況について

379 件に郵送し、103 件の回答を得た

有効回答率 27%

6. 調査項目

- (1) 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか
- (2) 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか
- (3) 就職した卒業生が本学で学んだことや基礎能力が業務上活かされていますか
 - ・社会人としての基礎的な知識
 - ・仕事に対する姿勢
 - ・社会の変化に対応して行動する力
 - ・課題解決に向けて学び続ける力(生活科学科・ビジネス社会学科)
 - ・製菓に対する基本的知識と技術(製菓学科)
 - ・情報リテラシーを活用する力
 - ・マナー
 - ・教養
 - ・コミュニケーション能力
- (4) 自由記述

【2】調査結果

1. 結果概要

「本学卒業生は職場の環境に調和している」は 77 社、「本学卒業生は積極的に仕事に取り組んでいる」は 80 社から高い評価を得ている。

また、「卒業生が本学で学んだことや基礎能力が業務上活かされているか」については、3 学科ともに「仕事に対する姿勢」「コミュニケーション能力」「マナー」が高評価となった。

企業側からは、生活科学科及びビジネス社会学科については「情報リテラシーを活用する力」を、製菓学科については「製菓に対する専門的な知識と技術」の能力のさらなる向上が求められた。

2. 調査結果の分析と改善点

アンケート結果から読み取れる評価の高い能力としては「仕事に対する姿勢」「コミュニケーション能力」「マナー」「社会の変化に対応して行動する力」である。この能力は職場における協調性にとっても基礎となるものである。評価の高い能力をさらに伸ばす教育を積極的に行うことにより、卒業生の評価の向上につながると考えられる。

自由記述では「チームで働く力のより高い能力」や「更なるコミュニケーション能力の向上」を求める意見がある点を考慮して、キャリア科目のカリキュラム内容の検討を行っていく必要がある。また IT スキルの不足に関するコメントがあり、より高い IT スキルを獲得させる必要がある。

現在の新生は情報教育を受けているが、その習得状況には個人差が大きい。入学時のプレースメントテストにより習熟度別のクラス編成を行うことや、習熟度の低い新生に対しては、基礎学力を補うリメディアル科目を配当するなどの取り組みが必要であると考えられる。一方、習熟度の高い新生に対しては、情報リテラシーを活用する実践的なアクティブラーニング科目を配当することで、メリハリのある情報教育を行っていくべきであろう。

製菓学科については、技術だけではなく、製菓に関わる基礎知識や理論のさらなる涵養を求める意見がある。また、食を通して人々の健康維持に関わる人材として、栄養価計算や栄養表示、食品添加物に関する知識など、実践に必要な知識・技術の向上も求められている。上記の点を考慮して、カリキュラムを見直し、教育内容・教授方法を検討し、改善を進めていきたい。

以上